

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区野沢 4-22-2
園名	駒沢保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然～おもしろいことみつけたよ

<テーマの設定理由>

園庭では、日ごろから虫探しやままごとのごっこ遊びを楽しんでいる。庭のまわりの草木を見立て遊びの材料にする姿もみられる。草木を増やすことで、そこに虫が集い、より遊びの中で自然に触れて興味・関心をさらに深め楽しんでいく。

2. 活動スケジュール

- ・1回（10月）土を入れ、種や苗を植えてみよう どんな花や野菜が芽吹くかな
- ・2回（11月）虫が遊びに来たよ ～私たちは小さな研究者～
- ・3回（11月）私はこの虫が好きなんだ、こんな虫が来たら良いのにな
- ・（12月）保護者向けお便り配信
- ・（2月）保護者向けお便り配信
- ・4回（3月）菜の花の種を採取してみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・自分のタイミングで植えたいものを植えられるように、5歳児については個人プランターを用意した。（プランター、土、苗、種）
- ・調べたい時にすぐに手に取れるよう、テラスに環境設定をした。（絵本、紙芝居、図鑑虫かご）
- ・室内でもじっくりと調べ観察ができるよう、環境設定をした。（虫眼鏡、顕微鏡、書画カメラ、スクリーン、プリンター）
- ・パーツを組み立てて使う玩具を用意し、見つけた虫や「こんなのをいたらいいな」と空想の虫を見立てて作製を楽しめるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 植物や野菜が成長するために必要なこと ～土を入れ、好きな種を植えてみよう～
- ② 私たちは小さな研究員 ～むしむし研究所での出来事から～
- ③ この虫が好き！ こんな虫が来たら良いのにな
- ④ 菜の花が咲いた、種を採ってみよう ～花が咲き、菜種を採取してみよう～

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ① ビニールシートに広げた土や野菜の苗、複数のプランターを準備している様子を見て、「これなんだろう？」と興味を示した子どもたちが集まっている。5歳児クラスは個人プランターを自分たちで準備したことで、より自然が身近なものとなった。「どうして同じ時に植えたのに茎の長さが違うのだろう？」という保育士の問いに対し、「〇ちゃんは毎日水やりをしているのを見かけるよね」「水が足りないのかな？」「こっちの方が日がよく当たっているような…」と友だちのプランターと見比べて、日当たりや水やりの頻度、植えた時期によって生長具合が異なることに気づく。



- ② 緑が増えたことで、少しずつ園庭を訪れる昆虫の種類も豊かになってきている。ブロッコリーの葉が虫に食べられた穴があり、ある子が葉をめくると一匹の青虫がいた。



「バケツに移そうか」と観察できる環境を整えていると「砂を下に入れてあげたらいいかな？」「でも、ブロッコリーは土の中で育つから土のほうがいいかな？」と子どもたちなりに考えを巡らせる。ルーペで表面の模様を観察し、どんな成虫になるか図鑑と見比べている姿がある。“見る”“触る”という気経験がつながり紙芝居を見て、ダンゴムシの脱皮前の姿とそうでない姿を見比べて「なんでだろう」という疑問をもつ子もいた。

- ③ 拡大鏡付きの虫かごやルーペを使うことでじっくりと観察する姿が見られる。図鑑の写真もルーペを用いて見る事で、足に生えている毛の一本一本がよく見え、「この虫が描きたい」「ブロックで作ってみたい」とイメージを膨らませながら描画や玩具を用いて表現する意欲につながってきている。



- ④ 冬に蒔いた菜の花の種、「この後どうなるんだろうね」と保育士のつぶやきを受け、図鑑で調べてみることにする。房が乾燥すると中の種も乾いて黒色に変わり再び蒔くことが出来ると知った子どもたち。「小学生になったらまた種を蒔きたいな」「でも、もう卒園しちゃうから…」と話す姿を受け、実験をしてみることにした。茎を切り、風通しの良い場所につるしてしばらく置き、房を乾燥させることに成功した。子どもたちの願いが実を結び、次の季節への期待に繋がっている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 草花が元気に大きく成長するためには、適度な日光、水が必要であることを実際に目で見て感じる事が出来たのではないかな。
- 個人用プランターを用意した事で、取り組みたいタイミングで育てたいものを自由に植えられるようにした。より大切に、小さな命を扱う姿が見られた。友だちの栽培物の成長を喜び、次は自分の芽も花開かないかなという子どもたちの期待を大切にしていく。
- 図鑑を室内だけでなく、テラスにも設置する事で、調べたいと思った瞬間を逃すことなく調べられる環境となり、興味の幅が広がるきっかけになると感じた。
- ルーペや拡大鏡を用いる事で“よく観察する”“よく見てみる”経験に繋がった。
- 青虫をバケツに移した際の「土のほうがいいのでは？」という発言は、前段階として子どもたちと①の取り組みのようにプランターを増やすために土に触れる活動を取り入れたことで得られた考えであると感じた。
- ルーペを使って図鑑の写真を見る面白さを感じた。肉眼ではよく見えていなかった部分がはっきりと見えた時の子どもの表情が印象的である。
- “こんな虫がきたらいいのに、”という子どもの想像力の豊かさに気づかされた。この想像力を大切に活動の展開をしていく保育のあり方を考えていきたい。
- 子どもたちに“こうしてみたい”という展望がはっきりとあった。その思いを実現、またはそれに近い形にしていくために、子どもと共に探求していく面白さを感じた。
- 図鑑で調べてみる経験が生き、分からない事や知りたい事があった時に、自分でも調べてみる姿が見られるようになってきている。
- 種を蒔き、水やりなどの世話をして花が咲いて種が取れてという一連の流れを経験する機会となった。計画的に進めていくことで子どもと共にゆとりをもって楽しむことができると感じられた。